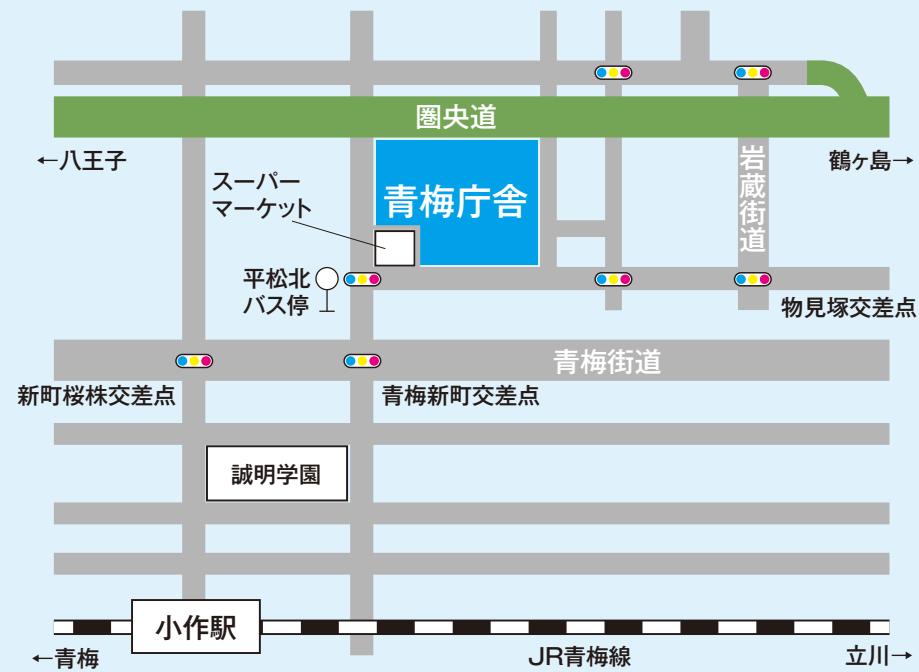


# 事業案内

## 交通案内図



### ●電車でお越しの方

- JR青梅線 小作駅東口より  
西東京バス 三ツ原循環西回り10分  
「平松北」下車徒歩3分
- 駅前タクシー利用約8分
- 徒歩約25分(東北約2.5Km)

### ●車でお越しの方

- 圏央道青梅インターより5分
- 青梅街道青梅新町交差点より3分

### 見学される方へのお願い

- ・防疫上、犬や猫などの動物を伴っての見学はできません。
- ・見学にお越しの際は、必ず受付で入门票に氏名等の連絡先を記入してください。  
※鳥インフルエンザ等発生時の連絡に使用します。
- ・指定された見学場所以外は立入らないでください。
- ・場内は禁煙です。
- ・当庁舎では食肉や卵、牛乳等の販売は行っていません。

## (公財) 東京都農林水産振興財団 青梅庁舎

〒198-0024 東京都青梅市新町6-7-1

青梅畜産センター TEL:0428-31-2171 FAX:0428-31-8474

農林総合研究センター  
畜産技術科 TEL:0428-31-2171 FAX:0428-31-8474

有機農業堆肥センター TEL:0428-33-3997 FAX:0428-33-3998



公益財団法人 東京都農林水産振興財団 青梅庁舎



# 青梅庁舎の概要

## 組織

(公財)東京都農林水産振興財団



## 青梅畜産センターと農林総合研究センター

青梅庁舎の前身となる東京都畜産試験場は、平成17年に現在の(公財)東京都農林水産振興財団に統合されました。

この時誕生したのが、東京都が開発した「トウキョウX」、「東京しゃも」及び「東京うこっけい」の系統を維持し、種畜を生産者に配付する事業を行う、事業課「青梅畜産センター」です。

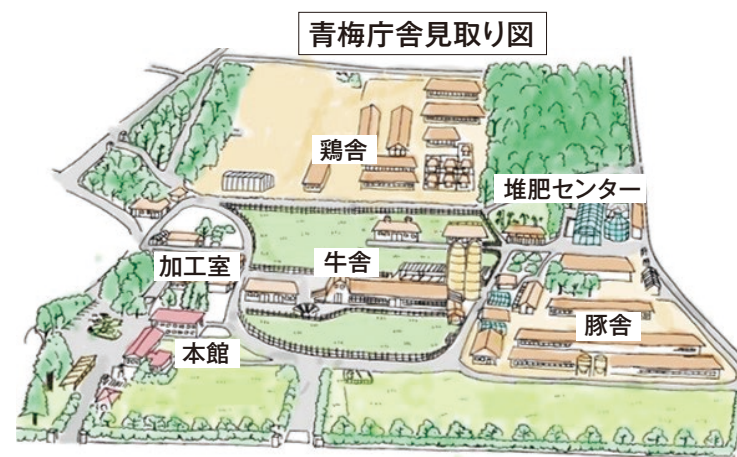
畜産振興のための研究や技術開発業務は、農林総合研究センター「畜産技術科」が引き継ぎ、両部門は密接に連携して、種畜の効果的な活用や、付加価値の高い畜産物を供給するための技術開発、都民の畜産への理解を促進するための事業を実施しています。

## 沿革

1920年(大正9年)	東京府立種畜場設立(日野市)
1924年(大正13年)	種畜場移転(農事試験場併設)(立川市)
1946年(昭和21年)	種畜場霞分場設置(青梅市)
1949年(昭和24年)	霞分場を本場とする
1964年(昭和39年)	東京都畜産試験場に改称、試験研究業務開始
1994年(平成6年)	東京都有機農業堆肥センター設置
2005年(平成17年)	(財)東京都農林水産振興財団に統合、研究部門は農林総合研究センター、事業部門は青梅畜産センターに改組
2010年(平成22年)	公益財団法人へ移行

## 土地・建物

土地	258,409㎡
(内訳)	
耕作地	91,539㎡
採草地	25,839㎡
雑木林	55,369㎡
建物敷地	85,664㎡
建物	10,519㎡ 77棟



※防疫の関係により、見学可能なエリアは変更する場合がございます。  
 ※老朽化した施設を更新するため、青梅庁舎再編整備を予定しています。

# 青梅畜産センター

東京ブランド畜産物の種畜維持を担う

- ・種畜の系統維持及び血統管理
- ・畜産農家等への種畜の配付及び技術指導
- ・畜産物の生産拡大及び消費拡大のための支援
- ・家畜への理解を深めるための活動



## 【トウキョウX】

平成9年に系統造成豚として認定されたトウキョウXの系統維持と血統管理を行っています。維持群(原々種豚)から生産した子豚を、「TOKYO X生産組合」を通じて、加盟する生産者に原種豚として配付します。生産農家ではこれをもとに種豚(雌)を生産します。肉豚として出荷されるのは、種豚から生まれる豚たちです。

また、既存の生産農家へ技術指導を行っている他、新規の生産農家を開拓するなど生産拡大にも取り組んでいます。

## 【東京しゃも】

改良した純系軍鶏と二元交雑時に用いるロードアイランドレッド種の系統を維持し、昭和59年に完成させた交配様式をもとに東京しゃものヒナを生産して養鶏農家に配付しています。また、高病原性鳥インフルエンザ対策の一環として、都立大島高校の協力を得て、系統保存のための分散飼育を行っています。

## 【東京うこっけい】

平成3年から改良を進め、平成10年に系統「東京うこっけい」を確立しました。当センターでは、この系統を維持しながらヒナを生産して養鶏農家に配付しています。また、高病原性鳥インフルエンザ対策の一環として、都立大島高校の協力を得て、系統保存のための分散飼育を行っています。

# 農林総合研究センター 畜産技術科

試験研究による技術開発で東京の畜産の基礎を支える

- ・都市環境を活かした高収益型畜産経営の確立
- ・畜産の生産性向上技術の開発
- ・畜産物の安全性向上技術の開発
- ・畜産環境問題を解決する低コストで効率的な改善技術の開発



## 【牛の研究】

①飼養管理(自給飼料増産、ストレス軽減) ②繁殖管理(安定的な子牛生産) ③衛生管理(乳房炎対牛パピローマ)を3大テーマとして、農家の抱える問題を解決するための試験研究を行っています。

## 【豚の研究】

①トウキョウX繁殖成績の改善 ②トウキョウX子豚の育成率向上 ③トウキョウXの肉質維持向上と安定生産を3大テーマとして、生産農家の抱える問題を解決するための試験研究を行っています。

## 【鶏の研究】

卵肉兼用を目指した東京うこっけいの高収益型経営の確立のための試験研究を行っています。

## 【畜産環境の研究】

近隣環境を考慮した臭気対策および総合的衛生害虫管理システムの構築のための試験研究を行っています。



# 有機農業堆肥センター

当堆肥センターは、平成6年に東京都が有機農業をはじめ環境と調和した環境保全型農業を推進するため、「土作り」に不可欠な優良堆肥生産を実証するモデルプラントとして設置されました。

青梅庁舎内や近隣畜産農家から毎日搬入される家畜ふん（飼料残渣や敷料を含む）にリサイクルセンターで生産された街路樹等の剪定枝チップを副資材として混合し、約2~3ヶ月かけて完熟堆肥化を図っています。



## 【堆肥生産技術の普及】

優良堆肥生産技術を都内畜産農家等に普及するため、施設を公開し、技術や情報を提供しています。



## 【優良堆肥の生産販売】

有機農業や東京都エコ農産物認証制度の認証を受けた生産者、環境保全型農業に取り組んでいる生産者等に対して、優良堆肥を販売しています。



- ①家畜糞と剪定枝チップを混合し、
- ②自走式攪拌機で定期的に攪拌し、約20日間、発酵処理をする。
- さらに③横型ロータリー式発酵槽で毎日攪拌し、約20日間、発酵処理をする。
- ④ふるい機にかけて大きなチップ等を除去し、⑤20~30日間、後熟処理をする。
- ⑥完熟堆肥の完成。

## 【都民へのPR】

循環型社会の構築、環境保全型農業の推進等、東京都が取組む施策をPRしています。

# 家畜への理解を深めるための活動

青梅庁舎では年に2回「家畜ふれあいデー」を開催し、地域の方々を招いて、ひよこのふれあいや牛の搾乳体験などを実施しています。家畜たちとのふれあいによって動物の息遣いや肌のぬくもりを感じ、子供達に命の大切さや自然に対する感受性を育んでもらうことを目的としています。

また、青梅庁舎では、青梅市自治会連合会と青梅食育クラブと連携して、体験農園を設置しています。食を通じて地域の特性等を理解することや、食文化の継承を図ること、自然の恵みや勤労の大切さなどを理解することを目的としています。夏休みや家畜ふれあいデーで開催される料理教室では、農園で収穫した野菜を使っています。

その他、東京都農業祭や東京都食育フェア等のイベントに参加し、ひよこのふれあいや、東京の畜産物を通してPRを行っています。



搾乳体験



ひよこのふれあい



東京の畜産物PR

- 【活動実績】
- 【4月】春の家畜ふれあいデー
  - 【11月】東京都農業祭
  - 【10月】秋の家畜ふれあいデー
  - 【11月】東京都食育フェア
  - 【10月】東京味わいフェスタ
  - 【2月】畜産物加工教室

# トウキョウX

トウキョウXは、肉質に優れた特徴を持つ3品種（北京黒豚、デュロック種、パークシャー種）の豚を掛け合わせ、それぞれの特徴（良質な脂肪、豊富な脂肪交雑、筋繊維の細かさ）を併せ持つように改良された豚です。平成2年から7年かけて改良し、平成9年に日本種豚登録協会から系統造成豚として認定されました。名称については、認定された系統名を「トウキョウX」、豚肉としてのブランド名を「TOKYO X」としています。

PICK UP!

## TOKYO Xの特徴

- 肉色は淡灰紅色（ピンク）で、柔らかい
- 脂肪交雑に優れ、脂肪が良質
- 肉の多汁性に富み、なめらかな歯ごたえ

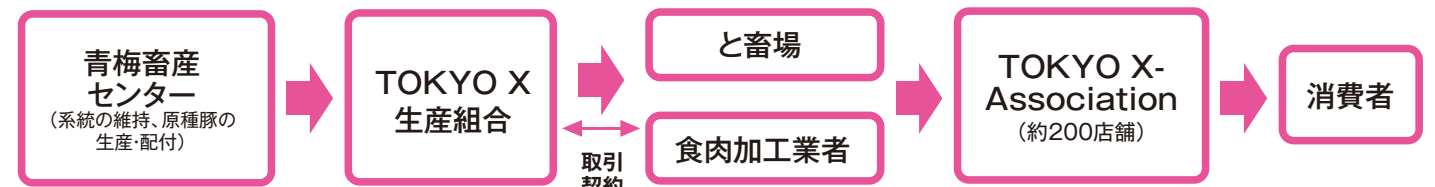
毛色は3品種の影響を引き継ぎ、黒、茶、黒と茶の斑など様々。

## 交配方法

肉質を重視したトウキョウXの交配は一般の肉豚生産の方式とは異なり、トウキョウX同士の純粋交配が行われます。青梅畜産センターでは、近親交配がおこらないよう、血統を管理し、原種豚を生産・配付しています。そして、農家では、配付された種豚を用いて、指定された組み合わせによる交配をして種豚・肉豚を生産しています。

## 生産と流通

トウキョウXは、生産から流通・小売まで独自のルートが確立され、安全・安心な豚肉が消費者に提供されています。また、TOKYO Xは都内の小売店で組織されるTOKYO X-Association 加盟店だけが販売できるしくみになっています。また、TOKYO Xは、ハム、ベーコンとしても加工され、好評を博しています。



## 生産のための主な取り決め



TOKYO X枝肉

「TOKYO X生産組合」の生産者はトウキョウXを生産するにあたり、以下のような取り決めをしています。

- トウキョウX同士の純粋交配
- 耳標の装着（生産履歴の把握）
- トウキョウX専用飼料の給与
- 各種の報告義務（繁殖記録、出荷記録、棚卸報告等）



## 東京しゃも

江戸時代初期に日本に渡来した軍鶏(シャモ)は、主に闘鶏用として改良されてきましたが、その肉の美味しさは江戸の名物料理「シャモ鍋」としても有名で当時の風俗誌にも登場しています。「東京しゃも」の開発はこの伝統あるシャモ肉の味を再現するため、昭和46年に、まず軍鶏特有の闘争性の除去や育成率の向上を図る改良から始まりました。交配様式は昭和59年に完成しました。



PICK UP!

### 東京しゃも肉の特徴

- 軍鶏独特の歯ごたえや食味を維持
- プロイラーと比べたんぱく質に富み、脂肪が少ない
- 料理による肉汁の損失が少ない
- 肉の旨み、コクが逃げない

## 東京うこっけい

全身を柔らかい羽毛で覆われ、肉や骨が黒いという特徴を持つ烏骨鶏は、江戸時代の初期にその薬効を記した薬学書とともに中国から渡来しました。中国や韓国では古来より肉や卵が薬膳料理の素材として珍重されており、漢方の効能も謳われている鶏です。「東京うこっけい」は産卵率の向上を目的に選抜を行ってより多く卵を産むよう改良し、同時に飼料効率を高めることにも成功しました。

平成3年から改良を進め、平成10年に系統を確立しました。

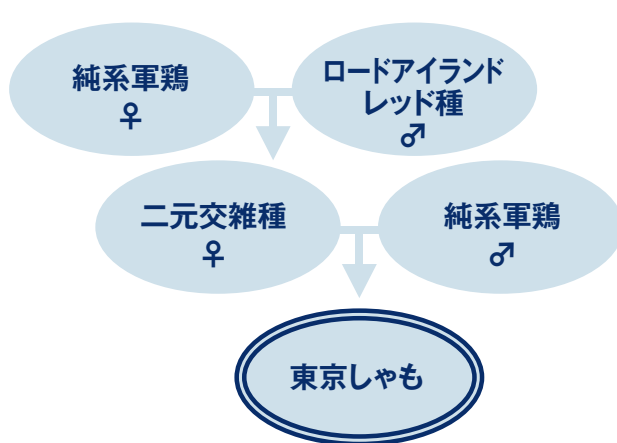


PICK UP!

### 東京うこっけいの特徴

- 産卵数が年間190個程度に向上(通常の烏骨鶏は年間50~80個)
  - 飼料効率が高いため、養鶏農家の収益も向上
- 都市の小規模養鶏を支える素材鶏です。

## 交配方法



「東京しゃも」は改良した純系軍鶏とロードアイランドレッド種を交配した二元交雑種に、さらに純系軍鶏を交配するという三元交雑の交配様式をとっています。この交配様式によって軍鶏独特の歯ごたえや食味が維持され、加えて生産性を高めることにも成功しています。



ロードアイランドレッド♂

## 生産と流通

青梅畜産センターで生産した東京しゃものヒナは、ふ化の翌日に「東京しゃも生産組合」に加入している都内の生産者に販売されます。その後12~15週間の飼養期間を経て出荷され、指定卸問屋から小売店、飲食店を経て消費者に鶏肉が提供されています。また、東京しゃも肉はウィンナーとしても加工され、好評を博しています。



## 烏骨鶏の卵

烏骨鶏は、一般の採卵鶏に比べて体重が小さく、成鶏でも1kg前後しかありません。卵自体も小さく、ニワトリが平均60gに対して平均38gほどです。

烏骨鶏卵は黄身の比率が大きく、100g中に含まれる鉄やビタミンAが一般鶏よりも多いとされています。



東京うこっけいの卵

## 東京うこっけい肉の利用

育種改良により産卵能力を高めた「東京うこっけい」は都内農家に広く普及しており、烏骨鶏卵は今では東京ブランド畜産物の一つになっています。比較的規模の大きい養鶏農家が中心となって平成20年度に設立された「東京うこっけい生産組合」では、産卵の終了した鶏を肥育することで「東京うこっけい」を肉用としても利用できるよう活動しています。



東京うこっけいハム

## 生産と流通

青梅畜産センターで生産した「東京うこっけい」のヒナは、一般の養鶏農家に販売しています。農家で生産された卵は主に農協などの直営店で販売されており、価格は平均すると1個130円前後です。また、カステラやプリン等のお菓子の材料としても利用されています。東京うこっけいの肉は、加工業者を通してハムに利用されています。

